



第74回 浜大祭正門ゲート（テーマ：羅針盤）

会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 原口 淳

横浜市立大学後援会会員の皆さま、日頃より後援会活動へのご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

この原稿を書いているのは10月ですが、ようやく秋の気配が訪れほっとしています。近年、毎年夏の各地の最高気温と猛暑日数が増えています。異常気象が常態化しており、台風の強大化、線状降水帯による豪雨災害などにより農水産物を始め地球の生態系に大きな影響が出ています。人類が生み出す科学技術の発達がこれほど地球環境に影響を及ぼすとは第一次産業革命が始まった260年前には誰も想像していなかったでしょう。

日本では総理大臣が替わり10月に衆議院総選挙が行われます。11月にはアメリカ大統領選が行われます。世界のリーダーが替わりこの複雑化した世界をどう導くのかという問いと同時に、リーダーを選ぶそれぞれの国の国民がどういふ国家、社会の将来像を望むのかが問われます。

世界共通で普遍的なことをひとつ挙げるなら教育の大切さではないでしょうか。

何かを判断する際に知識や考える力の有無が社会の方向性を大きく左右するからです。

その教育のあり方も常に変化しており、インターネット普及前後で大きく変わったように感じます。インターネット後の社会では情報は早く広く伝播します。社会変化のスピードは加速度的に早くなりました。過去の経験値だけでは未来は予測できなくなっています。

教育においても「教えて育てる」から、「自ら学んで育つ」に比重が移りつつあるように感じています。社会のインフラ技術やツールを使いこなすという点で、情報収集と処理に関しては若いデジタル世代が圧倒的に有利な社会になっています。

一方、政治や経済の世界では相変わらず高齢の男性が多くのリーダーシップポジションを占めています。若い世代が感じる現在の日本社会への違和感と閉塞感の最大の要因かもしれません。

リーダーシップの新陳代謝こそが未来への希望、可能性であり、それを可能にするのが教育の役割であると思っています。

本学の学生が自ら学び、自己の知識と知性を磨き、自分の人生を切り開くとともに、より良い社会を牽引する人材として羽ばたいてくれることを願います。

後援会は学生の学びや生活に関わる幅広い支援を大学と一体となり進めてまいります。



「会長コラム 春夏秋冬」（年4回）をホームページに掲載しています。是非、ご覧ください。



学長挨拶

学長 石川 義弘



横浜市立大学後援会の皆さまには、平素より本学へのご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。皆さまからの学修活動や課外活動への支援、海外留学や学会参加への支援など、幅広いご支援により本学は支えられています。改めて感謝申し上げます。

年々学内には活気が戻り、学生たちの明るい笑顔がキャンパスに溢れています。課外活動や留学などに参加する学生も増加傾向にあり、さらなる活躍が期待されます。

11月3日と4日には、第74回浜大祭（金沢八景キャンパス）も盛大に開催されました。

ポストコロナ社会において、本学が目指すのは、Digital、Medical、Globalの3つです。教育面では、領域横断型プログラムや留学プログラムの充実など、学際的な学びの環境を創出し、豊かな教養と人間性を育み、高い倫理観とグローバルな視点を備え、「専門性」と「データ思考」により、新たな価値を創造する人材を育成します。

また、「研究の横浜市立大学」というブランドを確立するため、全学をあげて研究力の強化を図っています。本年4月には「YCU共創イノベーションセンター」を立ち上げ、得られた研究成果をオープンイノベーションにより、社会へ還元していくことを目指しています。

一方、本学の設置母体である横浜市は人口減少局面に転じ市税収入が減る中で、本学への支援も減少せざるを得ない状況です。本学も経営改善に向けた大幅な事業見直しを行っており、後援会からのご支援についても、今後ご相談させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

本学は2028年に創立100周年を迎えます。4つの記念事業プロジェクトがあり寄附も募集しておりますので、本学のホームページ内にある100周年記念事業サイトをご確認いただき、そちらへもご協力を賜れば幸いです。

今後も、教育・研究・医療の各分野でリードしていくことを使命とし、社会の発展に寄与するとともに、市民の誇りとなる大学づくりを進めてまいります。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

後援会副会長挨拶

国際教養学部長 鈴木 伸治



横浜市立大学後援会の皆さまにおかれましては、日頃より本学の教育・研究・地域貢献・診療にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

既に本会の趣旨につきましてはご理解をいただいているとは思いますが、今一度、会則のご確認をお願いします。なお、会則は、横浜市立大学後援会ホームページ（<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/>）、「後援会について」内または本誌（裏表紙に掲載）でご確認いただけます。

さて、本年度は、医学部医学科93名（内、女子37名）、医学部看護学科109名（同107名）、データサイエンス学部67名（同14名）そして国際総合科学部の再編に伴い誕生し、本年度で6年目を迎えた3学部、国際教養学部302名（同223名）、国際商学部287名（同136名）、理学部129名（同71名）の新入生を迎えスタートしました。

9月7日（土）には横浜市立大学後援会主催の保護者説明会を金沢八景キャンパスとオンラインのハイブリッド形式で開催し、対面で65名、オンラインでも多数の皆さま（367件のオンライン接続がありました）にご参加いただきました。この保護者説明会を通じ、本学の取り組み、キャリア支援、留学プログラムなどについてご理解を深めていただけたならば幸いです。

2028年（令和10年）に創立100周年を迎える横浜市立大学は、社会課題の解決にチャレンジし社会に貢献する人材を育成すべく、これからも新しい教育・研究の手法を取り入れてまいります。会員の皆さまから学生に更なる力強いエールを送っていただけますと幸いです。



ひらく×つなぐ
=かがやくYCU

< 100周年記念事業サイト >

<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~anniversary/>

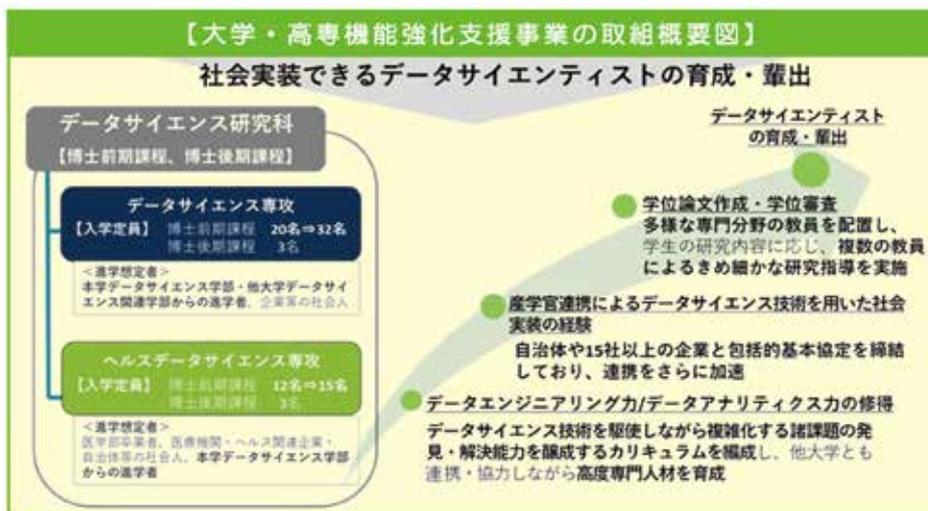


～デジタル社会をけん引する高度情報専門人材の輩出に向けて～

大学院データサイエンス研究科では、令和7年度より博士前期課程の入学定員を増員します。この増員により、我が国の喫緊の課題の一つであるデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進する人材の「質」と「量」の両面における不足の解消、特に人材需要が非常に高い状況にあるデータサイエンティストの育成・輩出に一層取り組みます。また、令和9年度にはデータサイエンス学部の入学定員増（60名⇒120名）を含む再編を予定しています。

【増員の背景】

DX推進人材の中で、特に事業・業務に精通したデータ解析・分析ができるデータサイエンティストの需要は非常に高い状況です。また、疾病予防・医療・介護などのヘルス分野では、少子高齢化に伴う疾病構造の変化や持続可能性な社会保障制度の維持など、多くの課題に直面しています。加えて、新型コロナウイルス感染症などの感染症の流行に伴い、医療従事者のみならずデータ分析を通じて課題解決策を提案していくデータサイエンティストの重要性が再認識されました。



本学は、2018年に首都圏初となるデータサイエンス学部の開設や2020年に大学院データサイエンス研究科（博士前期課程・博士後期課程）の開設を行うなど、これまでも時代を先取りして、データサイエンティストの育成・輩出に取り組んできました。今回のデータサイエンス研究科の定員増により、社会におけるデータサイエンティストの不足解消に向けた取り組みを加速します。

【令和7年度以降の博士前期課程の入学定員】※（）内は令和6年度までの入学定員

データサイエンス専攻：32名（20名） ヘルスデータサイエンス専攻：15名（12名）

【令和4・5年度データサイエンス研究科博士前期課程修了生の主な就職先】

業種を超えて、DXを推進する企業・業界における修了生のニーズが高くあります。令和4・5年度大学院修了生の主な就職先は、アクセントチャ株式会、アフラック生命保険株式会社、イオンマーケティング株式会社、エーザイ株式会社、株式会社NTTドコモ、第一三共株式会社、中外製薬株式会社、日本アイ・ピー・エム株式会社、日本放送協会（NHK）、富士通株式会社、読売巨人軍、横浜市立大学附属病院 等。

【増員後の教育研究体制の強化について】

社会の要請に応えられるよう幅広い分野の教員の増員や学生が研究に専念できる研究室・演習室の整備を行い、募集人員増に伴う教育研究体制の強化を図ります。なお、本件は国が実施する高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援「大学・高専機能強化支援事業」の助成を得て実施するものです。

オープンバッジの発行を開始

令和5年度後期より、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定を受けている次のプログラムの修了を証明するものとして、オープンバッジの発行を開始しました。

- 全学部生対象「ADEPT プログラム*」【リテラシーレベル】
- データサイエンス学部生対象「データサイエンス人材育成プログラム」【応用基礎レベルプラス】
- 国際商学部生対象「データサイエンス人材育成プログラム（国際商学部）」【応用基礎レベル】

オープンバッジの特長

- 国際的な技術標準規格で発行されているデジタル上の証明書です。
- 画像データ＋メタデータで構成されています。
- メタデータにはスキルの詳細や、取得条件、発行元情報、受領者情報が記録されています。
- ブロックチェーン技術が搭載されていて、偽造・改ざん防止が実装されています。

オープンバッジの活用例

- オープンバッジは「知識・スキル・経験のデジタル証明」です。保有している資格をスキルの内容とともにアピールできます。
 - メールの署名欄
 - 電子履歴書の保有資格欄
 - SNSで共有
- 就職活動で電子履歴書やメールの署名欄に貼ることで、自身のスキルを可視化させることができ、就職活動においても役に立たせることができます。



* ADEPT プログラム：AI Data Science Education Program for Tomorrow

学術情報センター

金沢八景キャンパス学術情報センターでは、学修・研究に関わるさまざまな情報やサービスを提供し、学生の多様な学修スタイルをサポートしています。

<所蔵資料>

図書：約 71 万冊

雑誌：約 1 万 4 千タイトル

電子ジャーナル：約 2 万 1 千タイトル

<利用時間>

通常開館	平日（授業期）	9:00 ~ 21:00
土日開館	土曜・日曜（日は試験期のみ）	9:00 ~ 17:00
短縮開館	休業中の平日など	9:00 ~ 17:00
休館日	祝日、年末年始ほか	-

昨年度に引き続き、有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただきました。



学術情報センターでは、学生の学修・研究を対面とオンラインの

両面からサポートしています。資料相談（レファレンス）は、対面の窓口のほか、LINE で気軽に利用できる環境を提供しています。また、資料は本棚に並ぶ紙の資料のほか電子ブックも整備し、場所を選ばない学修・研究支援を行っています。

◇後援会からの図書寄贈：後援会から毎年多くのご支援をいただき、学修・研究環境を一層充実させています。語学学修などに役立つ資料は電子ブックで整備することができたほか、ご支援いただいた学生の日常生活を豊かにする小説や実用書なども多くが頻繁に利用されており、学生生活に大いに役立っています。

◇学術情報センター（図書館）募金：学術資料の充実によって、最先端の研究と将来性に満ちた学生の育成を実現し、継続的に社会へと還元できるよう、皆さま方からご支援を募っております。おかげさまで、2022年6月から2024年9月末までの間に、約2,421万円のご寄附が寄せられました。ご寄附いただいた皆さま方に厚く御礼申し上げます。



ゼミ活動

国際教養学部 坪谷ゼミ 学生一同



JICA横浜における3年生の研究ポスター展示
（期間：10月1日～31日）

坪谷美欧子ゼミではエスニシティ論について学びます。エスニシティとは、20世紀半ば以降に生まれた概念で、言語、宗教、生活様式、帰属意識などで分類される社会集団を分析する概念です。ゼミの時間は、ディスカッションを中心として、日本に暮らす外国にルーツを持つ子どもや多文化共生などについて幅広く研究します。文献講読を中心とした座学のほかに、イベント開催やフィールドワークなどの活発な活動を行う点が坪谷ゼミの特徴です。学生が自発的にさまざまなことを提案し実現できる点でゼミに柔軟性のあるところもポイントです。

坪谷ゼミの2年生の前期（「プレゼミB」）では毎年、日本語支援教室を訪問し、外国にルーツを持つ生徒の学習を支援するお手伝いをするインターンを行います。座学だけでは学べない、実際に在住外国人の方々が生活レベルで何に悩んでいるのかを知ることができ、充実した時間を過ごすことができました。

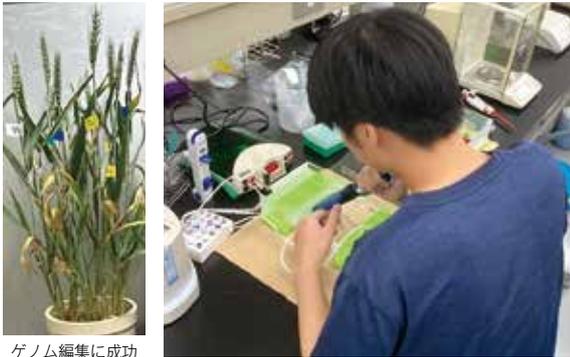
2023年7月にはブラジルにある大志万学園と松柏学園の生徒14名と坪谷ゼミとで交流しました。ブラジル来訪団の生徒は日系ブラジル人の中学生で、ルーツである日本の各地で数週間研修をされており、私たちは

YCUキャンパスツアーや学食で昼食を共にし、横浜とブラジルに関するクイズ大会で交流を深めました。

これらの成果を受け、2024年10月には、3年生のグループ研究のポスターをJICA横浜で1か月間展示させていただくこととなりました。この期間中、ペルーから日本への移住35周年に合わせて、上記の日本語支援教室の子どもとその親をJICA横浜海外移住資料館に招待し、南米から日本への移住史を知ってもらうイベントを開催しました。

後援会の皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます。

ゼミ活動



ゲノム編集に成功したコムギ

実験をしている様子

理学部 4年 櫻井 涉敬

舞岡キャンパスにある木原生物学研究所の川浦研究室では、コムギのゲノム情報を活用し、環境ストレス耐性要因の同定、低アレルギー化やおいしくて健康に良い小麦粉に加工できるコムギの作出を目指して研究しています。

その中で、私はゲノム編集による低アレルギー化や加工適性に優れたコムギの作出を目指しています。コムギの種子に含まれるグルテニンとグリアジンというタンパク質によりグルテンができます。グルテンは小麦粉が様々な食品に加工できる要因の一つになっています。しかし、アレルギーや自己免疫疾患の原因

になることもあります。グルテンを構成するグルテニンとグリアジンは100以上の遺伝子によってコードされているため、これらを直接狙ったゲノム編集では完全にアレルギーなどの原因物質を取り除くことには至っていません。

そこで、私はグルテニンとグリアジンの転写因子を標的としたゲノム編集に取り組んでいます。転写因子の一つであるSPA*のゲノム編集に成功したため、現在はグルテニンとグリアジンの蓄積やコムギの形態への影響を調査しています。

2024年9月19日から20日に広島大学で開催された日本育種学会第146回講演会に参加し、「グルテンの組成改変を目指したパンコムギ転写因子SPAのゲノム編集」という演題で口頭発表を行いました。初めての学会参加で、初めての発表と初めて尽くしではありましたが、今回の口頭発表を通じて自らの研究へのより深い理解と、プレゼンテーションの技術について多くの学びを得ることができました。

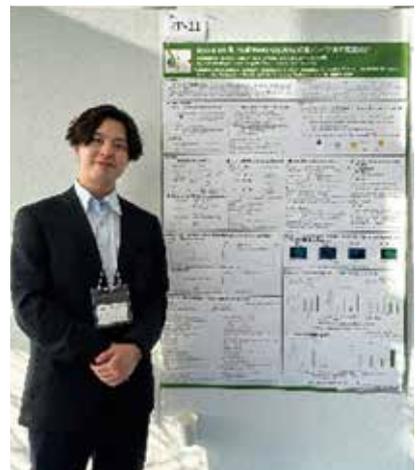
今回の学会参加には後援会のご支援をいただき、ありがとうございました。後援会の皆さまには、今後とも温かいご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

* SPA : Storage Protein Activator

国内学会発表

生命医科学研究科 生命医科学専攻 博士後期課程1年 保科 隼佑

2023年5月15日から17日に大阪府立国際会議場で開催された、第71回質量分析学会総合討論会へ参加しました。私は、タンパク質の糖修飾と、神経分化の関係を明らかにするために研究を行っています。特に、私に関心を持つN-アセチルグルコサミン修飾(O-GlcNAc)タンパク質は、細胞分化との関係が指摘されていますが、微量で解析が困難であり、不明な点が残されています。そこで、私は、感度と網羅性に優れたデータ非依存的取得質量分析法(DIA-MS)に着目しました。そして、ヒトiPS細胞から神経細胞を作製後、本手法を用いてO-GlcNAcタンパク質の量的変動を明らかにし、「DIA-MSを用いた細胞内O-GlcNAc修飾タンパク質の定量解析」という演題でポスター発表を行いました。



本学会には、質量分析法を用いた幅広い分野の研究者が参加します。本学会への参加は、自身の研究についても多角的な視点からご助言などを頂ける貴重な機会でありました。そのおかげで、自身の研究をより深く理解し進めることができ、2024年3月の日本薬学会での優秀発表賞受賞につながったと考えています。

近年、パーキンソン病(PD)などの神経変性疾患患者の増加が社会的課題となっています。私は現在、PDモデルiPS細胞を用いて、O-GlcNAc修飾とPDの関係を明らかにするために研究を進めています。微力ながら治療法や医薬品の開発につながる研究成果を発表し、社会へ貢献できる博士研究者を目指しています。後援会の皆さまには、このような貴重な学会へ参加させていただいたことに深く感謝申し上げます。今後とも、温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、本学では海外でのさまざまな学びや実践の場を提供しています。後援会からのご支援を受け、海外でさまざまな体験を重ね、多くのことを学んだ学生たちからの体験談をお届けします。

令和6年度も学生からの多種多様なニーズに応えるべく、キャンベラ大学（オーストラリア）、アペリストウィス大学（イギリス・ウェールズ）などの大学と交換留学を中心に新たなプログラムを増やしました。

（ご参考）https://www.yokohama-cu.ac.jp/ytog/global/overseas_study/ycuprograms.html



交換留学プログラム

国立政治大学 台湾 2023年9月～2024年6月

国際教養学部 3年 加藤 愛果



大学の日本語会話クラスでのボランティア

台湾の台北にある国立政治大学で約1年間学んでまいりました。多様な文化、民族、言語、宗教が入り混じる台湾での生活は、日々新たな何かに出会う非常に新鮮なものでした。留学を通じて、多様性を認識した上で互いを尊重しあうことの重要性を学びました。現地の大学には留学生が多く在籍しており、異なる国や地域から来た学生と共に授業を受けていました。授業内でのチームプロジェクトなどを通じて、異なる考え方や物事への向き合い方を知ることができたと感じております。自身の弱みを痛感すると同時に、チームメイトの支えによっ

て成長できたと考えています。

さらに、見つけたチャンスを逃さないことの重要性も実感しました。現地で出会った仲間の挑戦心に刺激され、私も得意不得意に関係なく一歩踏み出す勇気を持つことができました。学外で行われる文化交流イベントに参加したり、大学院生と共に受ける少人数授業を履修したりと、挑戦の日々を送っておりました。目の前にあるチャンスを逃さないよう行動することで、新たな気づきや学びを得ることができました。学外においても、台湾のお茶文化や日本との歴史的な関係性など、留学するまで知識のなかった分野も好奇心を持って学ぶことができました。留学を通じて、自ら考え行動に移す力を培うことができたと感じております。後援会の皆さまの支援のおかげで、留学生活においてさまざまな挑戦をし、成長することができました。心より感謝申し上げます。



現地の小学校での日本文化紹介活動

夏季短期語学研修

サンディエゴ州立大学 アメリカ合衆国 2024年8月14日～9月16日 理学部 4年 畑島 伸哉

学生生活最後の夏に、人生で一番濃い1ヶ月をサンディエゴで過ごしました。大学4年で留学は少し時期が遅いと感じましたが、就活や研究の状況と留学の時期を見計り、挑戦しようと決断しました。留学では海外文化に触れることを目的に、さまざまなイベントやクラブに参加しました。大学では週5日授業を受け、発音や文法など基本的な英語の授業を始め、アメリカの歴史の授業や道案内など日常生活における会話法といった留学ならではの授業も経験し、またプレゼンテーションや即興劇などの珍しい授業も受けました。授業内容はグループワークが多く、インプットよりアウトプットを中心に行い、先生が講義したことの練習や考えをグループ間で共有しました。放課後は週1、2回ほどのバドミントン部の活動に参加したほか、さまざまな団体の新入生歓迎会に参加し、学部生との交流を深めました。ホームステイ先のホストファミリーや隣人との良好な関係や、観光地では、現地の人の親しみやすさから、人と関わるハードルが日本と比べてとても低いと感じました。一方、チップの有無がサービスのクオリティに影響することや、人種差別なども含め一人一人が自分の思想を持っており、それが表に出やすい環境だと感じ、日本との違いを実際に経験することができました。後援会の皆さまのご支援のおかげで、忘れられない1ヶ月を過ごすことができました。心から感謝しております。



バドミントン部の部員達との写真

第2クォーター (2Q) プログラム

ダブリンシティユニバーシティ アイルランド 2024年6月23日～8月18日 国際教養学部 2年 金子 玲菜



授業中での1枚

私は今年の6月下旬から8週間、2Qでアイルランドの首都にあるダブリンシティユニバーシティで留学を体験しました。英語の4技能を伸ばすために週5日、4時間の授業を受講しました。私の参加していたクラスでは前半の授業ではグループでのアイスブレイクがあり、そのあとに文法事項や習った単語についての解説と確認を兼ねたミニゲームなどを行い、実践的な英語力を身に付けていきました。後半は教科書の内容を確認した後に、あるトピックについてディスカッションを行うことが多かったです。午後は自由時間だったため、クラスを通じて仲良くなった他国からの

生徒と一緒に昼食を食べながら英語での会話を楽しんだり、ホームステイ先のご家族と交流をすることができました。この留学を通して実感したことは、自分の当たり前は他人にとって当たり前ではないこと、アウトプットの大切さです。今まで学校での勉強を通して知識を身に着けたつもりでいましたが、その知識を知った上で自分はどうか考えるのか、どんな解決策を提示できるのだろうかとその先を考え、伝える必要性を実感しました。この留学を通じ、そういったことを可能にするための英語力を今後磨いていきたいと具体的な目標を定めることができました。

日本国内では得ることが難しい貴重な体験をすることができたこと、本当に感謝しております。ありがとうございました。

海外フィールドワーク

ハノイ大学、ホアン・ロン教育センター ベトナム 2024年2月27日～3月4日 国際商学部 3年 西村 七帆

私は、医療経営ゼミの活動の一環として、ベトナムにてさまざまな施設の見学や現地の人々との交流を体験し、机上の知識だけでは得られない深い理解を得ることができました。その中でも強く印象に残ったのは、日本で働く技能実習生を養成する、ホアン・ロン教育センターの訪問です。日本語だけでなく文化や専門的な知識などを住み込みで学ぶベトナム人の方々と交流しました。歯ブラシを置く向きまで細かく決められているほどのとても厳しいルールの存在にとっても衝撃を受けました。日本で働いてくれている外国人の方々がどれほどの努力をしてくれているかをこの目で見ることができ、現在の日本での外国人労働者への対応を改め、外国人労働者を尊重することが必要であると強く感じました。

また今回のフィールドワークでは、以前から共に研究を行っているハノイ大学の学生の皆さまと多くの時間を共にし、交流を深めることができました。

最後にご支援いただいた後援会の皆さまに深く感謝申し上げます。皆さまの支援のおかげで得られた学びを、ハノイ大学との共同研究をはじめ、今後の活動や将来に活かせるよう、これからも頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。



ハノイ大学の皆さまと交流した際の集合写真

アカデミックコンソーシアム

フィリピン大学 デリマン校 フィリピン 2024年8月18日～8月24日 国際教養学部 3年 奥山 裕太



認定証と写真を撮るチームメンバー

私は8月18日から24日までの間、フィリピンで開催されたIUPW*に参加した。今年はスラム街において雨による自然災害に対する対策を考えるという内容だった。前半の内容は講義とフィールドワークの2つ。講義が難しく不安だったが、その後のパーティーでその不安は姿を消した。フィールドワークでは人生で初めてスラム街を歩いた。急なスコールや下水道から溢れてくる水と格闘しながら、街の異質さに心を奪われた。宙に浮く電線の束、壁のない家、そこは自分にとって完全な異世界だった。そこでの光景は今でも忘れられないものばかりだ。後半は発表のための準備と発表を行なった。友人たちと洪水に対してのアプローチを考え、深夜まで発表の準備をした。無事に発表が終わったあと、友人たちと互いを称えている時に、プログラムの終わりを実感し、彼らと彼らが住む国との別れを寂しく思った。

一週間はあっという間に、これまでの常識をなぎ払いながら嵐のように過ぎていった。異国で言語も国籍も異なる友人たちと、これまで考えたこともない問題に対して解決策を導き出すために全員で四苦八苦し、ときに目一杯遊び、互いに別れを惜しんだ瞬間をいつまでも覚えていたい。

* IUPW : International Urban Planning Workshop

第74回浜大祭

浜大祭実行委員会委員長 史 理恵

第74回浜大祭は、11月3日(日)・11月4日(月・振休)に金沢八景キャンパスで開催されました。本年度は、例年とは異なる曜日の開催であること、従来の企画の見直しも行き、課題とも向き合っただけでまいりました。そしてなによりも、準備日の悪天候にはとても悩まされましたが、無事に開催することができました。

コロナ禍を経て、浜大祭がどのような道を進んでいくのか。我々は、浜大祭の航路、委員一人一人の航路、そして出展団体や来場者の航路を



浜大祭実行委員集合写真

考え、「羅針盤<コンパス>」というテーマを掲げました。このテーマをもとに、新しく迎えた委員と一緒に準備を進めてまいりました。

本年度は、モビリティ試乗体験や、校内謎解きラリー企画、模擬講義など幅広いジャンルの企画を成功させました。そして、野外ステージの位置を前年度よりも手前の正門寄りに移動させ、グラウンド内にも飲食出展を設けることで、屋外の活気もあふれる文化祭となりました。

来年度もパワーアップした浜大祭をお届けします。また第75回浜大祭で皆さまとお会いできる日を心よりお待ちしております。



正門ゲート

第43回 東京都立大学・横浜市立大学総合定期戦 第73回 関東甲信越大学体育大会

運動部連合会委員長 壹岐 拓海

運動部連合会は、各運動部より1名ずつ委員を選出し構成され、横浜市立大学の運動部全35団体を統べる組織です。今年は都立大戦や関東甲信越大学体育大会など、さまざまなイベントに参加させていただきました。都立大戦では白熱した試合が繰り広げられ、普段見ることができない他部活の試合を見ることで、各部活が非常に良い刺激を受けることができました。関東甲信越大学体育大会においては、大会前に壮行式を執り行い、石川学長をはじめとする多くの方に参加していただき、激励の言葉をいただきました。日々、練習

に励む部員にとって、心に響く激励の言葉は日頃の活動に大きな励みになりました。都立大戦と関東甲信越大学体育大会では、他の大会と比較して横浜市立大学が一丸となって戦う意識が強く、運動部連合会としては大きな意味がある大会であると考えております。

このような大会に参加できるのも後援会の支援のおかげです。今後とも運動部、運動部連合会へのご支援をよろしく願います。



クラブ活動

■混声合唱団

団長 赤岡 里咲



私たち混声合唱団は1961年に横浜市大内の音楽協会傘下から独立し、今年の6月で創団63年となった歴史深い学生団体の1つです。今年の夏には6大学合同演奏会の絆(こだま)コンサートを開催し、学内外問わずさまざまな関わりを大切に活動しています。他にも学内式典や地域の方から演奏のご依頼をいただくなど活動は多岐に渡ります。コロナ禍では団員減少により苦しい日々を過ごしましたが、今年度は12名

の新入団員を迎え、現在は弊団最大のイベントである冬の定期演奏会に向けて日々の練習に励んでいます。昨年12月には、横浜みなとみらいホールにて第56回定期演奏会を開催し、222名の方にご来場いただきました。合唱は人の声の結集ですが、演奏会開催費のほか、指揮者やピアニストの方々などプロの音楽家の方をお招きしてご指導していただくため、非常に金銭的負担の大きい部活動です。私たちがコロナ禍を乗り越え、さまざまな活動を行うことができているのは後援会の皆さまによる多大なご支援のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

■女子バスケットボール部

主将 西村 渚紗

バスケットボールは、個々の技術に加え、チーム全体の連携やコミュニケーションが重要なチームスポーツです。横浜市立大学女子バスケットボール部は、長年続けてきた競技人生の集大成としている部員や、競技から一度離れた後に復帰した部員、新たな挑戦として大学から始めた部員など、さまざまなバックグラウンドを持つ部員で構成されています。バックグラウンドは異なりますが、「バスケットボールが好き」「試合に勝ちたい」という共通の思いを胸に、部員同士の信頼関係を大切にしながら日々練習に励んでいます。先日行われた関東大学女子バスケットボールリーグ戦では、日々の練習の成果を発揮しつつも、「勝つことの難しさ」を改めて実感しました。

私たちが練習や各種大会参加など、バスケットボールに日々注力できるのは、後援会の皆さまによる多大なご支援のおかげです。この場をお借りして、感謝申し上げます。今後とも仲間とともに切磋琢磨しながら精進してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



YCU ボランティア・スタートアップ補助金

ボランティア支援室では、学生団体がボランティアや社会・地域貢献活動を始めるときの支援として、令和2年度から当制度を開始し、後援会から補助金をいただいて交付しています。

社会課題に取り組むことを通して、学生の自主自律の精神を育成し、社会と大学を活性化することを目的としています。

■令和5年度 採択団体 Clover「海洋環境改善プロジェクト」

国際教養学部 3年 中川 広望

学生ボランティア団体 Clover (シーラバー) は、SDGs14「海の豊かさを守ろう」の目標を掲げ、海洋問題の解決を目指して令和4年度から活動を開始しました。本団体は環境問題に関心を持つさまざまな学部・学年のメンバーで構成されており、多様な視点から課題に向き合っています。団体創立当初から株式会社シードの「BLUE SEED PROJECT(※1)」に協力し、校内で使い捨てコンタクトレンズ空ケース(プリスター)の回収・発送作業を行っています。毎月3000個以上集まるプリスターは株式会社シードに発送後、物流パレットなどの再資源化の材料として業者に買い取ってもらいます。その収益は、海洋ごみ問題の解決に向けて活動している団体に全額寄附されます。



8月に開催された「海洋都市横浜うみ博2024(※2)」には出展団体として参加し、海洋ごみを使用した手作りの「環境まんげ鏡」を展示しました。多くの子どもたちが興味津々に環境まんげ鏡を手にとってくれたほか、Cloverの活動に関心を持ってお声かけしてくださる大人の方々もいらっしゃり、自らの活動や問題意識を社会と共有する意義と喜びを実感しました。

私たちの活動は、多くの方々の支えがあり成り立っています。今後も学び続けながら海洋問題の解決に向けて真摯に取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(※1)「BLUE SEED PROJECT」<https://www.seed.co.jp/blueseed/>

(※2)「海洋都市横浜うみ博2024」<https://umihaku.jp/>
将来を担う子どもたちに向けて、「海」の多様な魅力を発信するイベント



キャリア・就職支援の主な取り組み



就職活動関連図書

令和6年度は、業界研究入門も、就職ガイダンスと同じく4月に開催し、就職活動の早期化に応じた支援を行いました。また、6月には就活生に対し、内定者から直近の活動体験談を聴く機会を提供しました。イベント以外にも、YCU キャリアナビ（本学学生専用のキャリア・就職支援サイト）からの情報提供や、キャリア相談、OBOG 情報検索、図書貸出など、学生のニーズに応じたさまざまな支援を行っています。

詳細

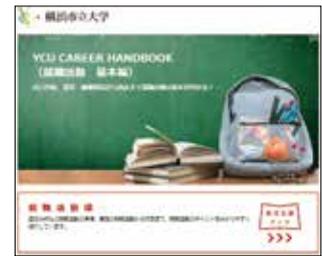
<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/assist/career/index.html>



令和6年度 就職ガイダンス（内定者登壇回）

就職支援冊子「キャリアハンドブック」デジタル版の提供スタート

2024年3月に、自己分析、業界・職種研究から内定まで就職活動の基本がこの1冊で分かる「キャリアハンドブック（就職活動基本編）」のデジタル版が、市大生のためのキャリア・就職支援サイト「YCU キャリアナビ」に掲載されました。就職支援ナビサイト会社「株式会社キャリアス」との提携によるサービスです。後援会の助成により新規導入が実現しました。本学学生であれば、学年・学部問わず、スマートフォンやパソコン、タブレットなど、各種電子端末からいつでも最新の就職活動のノウハウを確認できます。



海外インターンシップ体験談 2024年8月8日～9月6日

実習先：NNA Australia（オーストラリア・シドニー）

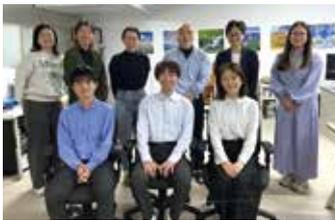
国際商学部 4年 岩淵 陽生

私は、海外で働くイメージを明確にするため、またビジネス英語の経験値を培うためにシドニーのプログラムへの参加を決意しました。

受け入れ先企業は、オーストラリアで事業展開している日系企業向けに、豪国内経済の動向や食品・農業関連の新聞を発行している会社でした。主な業務内容としては、リサーチや記事執筆、リリースイベントの補助などを行いました。

本プログラムでは日本人の参加者が多く、実習先が日系企業だったため、自分から積極的に動くことで現地の人とコミュニケーションを取り、交流する機会を持つよう心掛けました。現地の友人づくりや、少しでもビジネスシーンでの英語の活用機会を増やすために、上司やエージェントへの相談や渡航前に現地の学生と交流を深めておくなど、常に目的に対して経験の最大化を図るための行動を心掛けていました。

その結果、ロードトリップ（車を運転して長距離を旅行すること）に連れていってもらえるほど関係値の深い友人をつくることができたり、現地企業の CEO の方への英語でのインタビューを任せられたり、さまざまな体験をすることができました。後援会の皆さまにはご支援いただき、このような貴重な経験ができたことを深く感謝申し上げます。これからも自分が理想とする未来に向かって、突き進んでいきたいと思っております。



受け入れ先企業の上司と同僚たち



参加したイベントの様子

改めてご確認願います！ 新たなルールが適用されたインターンシップが本格稼働しました

文部科学省・経済産業省・厚生労働省の三省により、一定要件を満たしたプログラムのみ「インターンシップ」と位置付けるよう見直され、**インターンシップのルールが変更されました**。新たなルールでは、企業はインターンシップで得た学生情報を採用活動へ利用することが可能となっています。

本学でも令和6年度の夏季から、学部3年生以上が対象になったインターンシップが本格的にスタートしました。

一定要件：5日間以上、学部3・4年ないしは修士1・2年を対象に長期休暇に実施すること、就業体験や、受け入れ先の社員によるフィードバックを必ず行う など



詳しくはこちら→ https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/20230920-app_ope02-1.pdf
（文部科学省ホームページ「大学等におけるインターンシップの推進」）

伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式



伊藤雅俊奨学生制度は、故伊藤雅俊氏（本学卒業生 / ㈱セブン & アイ・ホールディングス名誉会長）より寄贈された株式に係る配当金を原資に創設した制度です。寄附者の意向に沿い、国際商学部の特に優秀な学生に奨学金を給付しています。

また、成績優秀者特待生制度は、学業・人物ともに優秀な学部生を表彰し、学業への一層の努力を奨励するとともに、学生の学修意欲の向上を期待して創設した制度です。後援会からは式典の生花をお贈りしています。

令和6年度の表彰式（9月20日）では、表彰状と目録の授与のほか、代表学生が学修成果の発表を行いました。当日は、ご家族や指導教員等 80 名を超える方々が参列し、その栄誉を讃えました。

YCU Best Student Award・YCU Student Award 表彰式

本学の名誉を高め、学内の士気を高揚した学生および学生団体に対して贈られる賞です。学術研究、スポーツ・文化、地域貢献・社会活動などの分野において活躍した学生の功績を称えることにより、学生生活の活性化を目的としています。後援会からは、受賞者に副賞をお渡ししています。

令和5年度は応募総数 25 件の中から学内での厳正なる審査の結果、分野別（学術研究分野および課外活動・社会活動分野）に、YCU Best Student Award には2件、YCU Student Award には6件が選出され、2024年3月15日に金沢八景キャンパスカメラホールにて表彰式を執り行いました。

詳細（受賞者・功績）についてはホームページにも掲載しておりますのでご覧ください。

<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/assist/employee-welfare/2024.html>



令和6年度後援会主催保護者説明会の開催報告について

保護者説明会は、在学生の生活や大学の取り組みを紹介することで、学生が安心して学べる大学であるという理解や信頼を深めることを目的に、平成24年度から開催しています。令和6年度は、昨年度に引き続き、参加者が対面とオンラインを選択できるハイブリッド形式で、9月7日（土）13時半から16時の日程で、金沢八景キャンパスカメラホールにて開催し、多くの方にご参加いただきました。

今年度の保護者説明会は、開催前から他の保護者がどのような疑問を持ち、どのような質問をしているのか共有して欲しいという保護者の声に応じて、事前に質疑を受け付け、更にも参加者からの質問に回答しました。

実施後のアンケートによる満足度（「大変満足」「満足」のいずれかで回答いただいた数の割合）について、「説明会全体の満足度」は87.3%と、非常に高い満足度をいただきました。

当日はご参加・ご協力いただき、誠にありがとうございました。

【説明会の概要や、配布資料の一部、詳細なアンケート結果はこちらをご参照ください】

https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2024/setumeikai_2024.html



令和6年度定時総会（書面決議）の結果について

令和6年度横浜市立大学後援会定時総会は、令和5年度に引き続き多くの会員の皆さまからご意見をいただくため、書面による決議とすることにいたしました。

2024年8月8日締切りで会員3,950名のうち462名（回収率11.7%）から回答票がご提出され、全議案について承認されましたのでご報告いたします。また、今回の議決に際し、会員の皆さまから後援会に対するご意見をいただきました。誠にありがとうございました。書面決議結果およびご意見への回答を含めた今後の取り組みにつきましては、ホームページに掲載のNEWS LETTER 2024 一定時総会（書面決議）報告一でご報告させていただきます。よろしくお願いいたします。



横浜市立大学後援会会則

- (名称)
第1条 本会は、横浜市立大学後援会と称する。
(事務局)
- 第2条 本会は、事務局を横浜市立大学金沢八景キャンパス内に置く。
(目的)
- 第3条 本会は、横浜市立大学の教育研究事業及び学生生活の支援等を行うことを目的とする。
(事業)
- 第4条 本会は、前条に定める目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 学生の教育研究活動への支援
(2) 学生の学業、課外活動及び福利厚生事業に対する助成
(3) 学生の国際交流事業に対する支援
(4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
(5) その他目的達成に必要なと認められる事業
(会員)
- 第5条 本会は、次の会員をもって構成する。
(1) 横浜市立大学に在学する学生（医学部2年次以上及び医学研究科を除く。）の保護者又は学生本人（以下「1号会員」という。）
(2) 横浜市立大学の教職員及びその退職者で本会の事業を支援する者（以下「2号会員」という。）
(3) その他本会の事業を賛助する者（以下「3号会員」という。）
(役員設置)
- 第6条 本会に、次の役員を置く。
(1) 理事 15名以上20名以内
(2) 監事 2名以内
2 理事のうち1名を会長、1名を副会長とする。
3 理事のうち2名を業務執行理事とする。
(役職者の選出)
- 第7条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、業務執行理事は、理事の互選により選出する。
(役員任期)
- 第8条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。
(役員任務)
- 第9条 役員任務は、次のとおりとする。
(1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
(3) 業務執行理事は、本会の業務を処理する。
(4) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。
(顧問)
- 第10条 本会は、横浜市立大学との連携を密にするため、顧問を若干名置くことができる。
2 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。
3 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。
(職員)
- 第11条 本会の事務を処理するために、事務局に職員を置く。
2 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。
(会議等)
- 第12条 本会の会議は、総会及び理事会とする。
2 総会及び理事会の議長は、会長がこれにあたる。
(総会の決議事項)
- 第13条 総会は、年1回開催し、次の事項について決議する。
(1) 役員選任
(2) 事業報告及び決算の承認
(3) 会則の改正
(4) その他本会の運営に関し必要と認められる事項
2 会長は、必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。
3 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。
(理事会)
- 第14条 理事会は、理事全員をもって構成する。
2 監事は、理事会に出席し、意見を述べる。
(理事会の決議事項)
- 第15条 理事会は、事業計画、予算、決算及びその他本会の運営に必要な事項について決議する。
2 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。
3 理事会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。
(会計)
- 第16条 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもってこれにあてる。
(会費)
- 第17条 本会の1号会員は、入学時に会費を納入することとし、既納の会費は返還しない。
2 会費の額は、次のとおりとする。
(1) 学部においては学生1名につき、50,000円（ただし、医学部1年次生については15,000円）
(2) 大学院博士前期課程及び博士後期課程においては院生1名につき30,000円（ただし、博士前期課程から博士後期課程に進学した者にあつては20,000円）
3 2号会員及び3号会員については、会費の納入を要せず、随時、本会の事業を支援、賛助するための寄附に努めるものとする。
(会計年度)
- 第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
(会則改正)
- 第19条 この会則の改正は、総会で行う。
2 改正を議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。
- 附則
本会則は、平成17年4月1日から施行する。
2 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。
- 附則
本会則は、平成19年6月2日から施行する。
- 附則
本会則は、平成22年6月26日から施行する。
- 附則
本会則は、平成26年7月5日から施行する。
- 附則
本会則は、平成29年7月1日から施行する。
- 附則
本会則は、令和元年7月6日から施行する。
- 附則
本会則は、令和3年8月10日から施行する。

横浜市立大学後援会

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内
TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp
<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/>



本誌は当会ホームページよりダウンロードできます。